

2022年8月28日

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者：坂本 徹

1. 概要

歩行名称	北海道ブロック (2)
歩行区間	スタート地点：乙部町役場 ゴール地点：寿都町役場
実施期間	2022年6月19日(日)～6月25日(土)
全歩行距離	149km

2. メンバー表

No	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	リーダー・企画・運転・会計	坂本 徹	65	3日	ワングルOB24期
2	記録	蔵田 道子	73	3日	ワングルOB15期
3	記録・運転	田口 馨	65	3日	坂本徹の中学同級生
4	記録	味沢 俊治	66	3日	坂本徹の大学1期先輩
5	記録・運転	米澤 俊枝	72	3日	坂本徹所属の山岳会会員
6	記録・運転	岸田 英子	73	3日	坂本徹所属の山岳会会員

3. 歩行の概要

	月日	出発地～到着地	歩行距離	歩行参加者
1	6/19	羽田空港昼便にて函館へ、函館名所旧跡巡り	—	メンバー表記載の6人
2	6/20	乙部町役場～せたな町役場大成支所	48.0 Km	同上
3	6/21	せたな町役場大成支所～茂津多岬駐車場	54.1 Km	同上
4	6/22	茂津多岬駐車場～寿都町役場	47.6 km	同上
5	6/23	江差散策、奥尻島に移動、奥尻島フットパス	—	同上
6	6/24	奥尻島名所旧跡巡り	—	同上
7	6/25	江差町に移動、大沼公園散策・名所旧跡巡り 函館空港夕方で羽田空港に移動	—	同上
合計			149.7 km	

4. 参加費・費用

(1) 参加者延べ日数 5日*100円 歩く会会費(参加費)合計 3,000円

(2) 一人当たりの費用

- ① レンタカー (函館借料・保険9,200円、奥尻借料・保険3,000円、ガソリン1,940円) 14,140円
- ② 宿泊料 1泊目: コンフォートホテル函館 各自手配(飛行機と宿泊1泊分のパック商品を含む)
- 2泊目: あわび山荘(1泊2食付き・一人一室) 9,800円
- 3泊目: 温泉ホテルきたひやま(1泊2食付き・一人一室) 8,455円
- 4泊目: きむら荘(1泊2食付き・一人一室) 6,000円
- 5泊目: 民宿木村さん家(1泊2食付き・二人一室) 7,000円
- 6泊目: トラベルハウス思い出(1泊2食付き・一人一室) 9,000円
- ③ 飲食代 1日目(6/19) 昼食代 1,250円
- 1日目(6/19) 夕食・交流会代 3,800円~5,400円
- 2日目(6/20) 夕食時飲み物代 500円
- 3日目(6/21) 夕食時飲み物代 600円~1,950円
- 4日目(6/22) 夕食時飲み物代 160円~200円
- 5日目(6/23) 夕食時飲み物代 500円~1,300円
- 6日目(9/24) 昼食代 1,000円
- 6日目(9/24) 夕食時飲み物 500円
- 飲食代等の合計 8,310円~12,100円
- ④ 観光施設入館料等(五稜郭タワー・奥尻温泉・駐車場) 1,520円
- ⑤ 奥尻フェリー往路 2,910円
- ⑥ 奥尻体験プログラム津波ミニ講演(参加によりフェリー復路無料) 1,500円
- ⑦ 備品(反射安全ベスト、赤色LED誘導棒)・通信費・資料代・記録写真集代 4,259円
- ① ~ ⑦ 総計(羽田空港までの交通費を除く) 72,894~76,684円

(3) その他各自支払費用

- ① 交通費(羽田と函館空港往復チケットとホテル1泊付きパック商品など各自調達) 3万円程度
- ② 函館山夜景観賞の登山バス往復料金(各自支払) 1,000円

5. 歩き方

(1) 歩行の班編成: 3班(各班2名)で分担・リレー方式で歩行

メンバーの体力を勘案して、チーター班(歩行距離22km程度)とウサギ班(歩行距離18km程度)とカメラ班(歩行距離10km程度)に区分して、メンバーの希望を考慮して決定しました。

	6月20日(48.0km)		6月21日(54.1km)		6月22日(47.6km)	
	距離	メンバー	距離	メンバー	距離	メンバー
チーター班	23.0km	○坂本 徹 味沢 俊治	22.2km	○坂本 徹 田口 馨	20.4km	○味沢 俊治 岸田 英子
ウサギ班	15.1km	○田口 馨 岸田 英子	20.1km	○味沢 俊治 米澤 俊枝	18.2km	○坂本 徹 米澤 俊枝
カメラ班	9.9km	○蔵田 道子 米澤 俊枝	11.8km	○蔵田 道子 岸田 英子	9.0km	○蔵田 道子 田口 馨

○は班長、各班に記録係を決めました。

コロナ対策のため、宿泊施設は一人一室(1泊2食10,000円以内)の確保に努めましたが、「民宿木村さん家」だけは二人一室となりましたが、他はすべて一人一室を確保できました。どの宿泊施設でも心温まるおもてなしを受けて、思い出深い時間を過ごすことができました。

なお、今回の歩行ルートには長いトンネルが多くありました。単調なトンネル歩行を楽しく歩けるようにするにはと考えた結果、エコー効果のあるトンネル内で歌集を携行して歌を歌いながら歩行するアイデアが浮かびました。実際に実践してみて、思った以上に楽しかったです。また、トンネル内での安全確保のため反射安全ベストを着用し、赤色LED点滅誘導棒を持って歩行しました。

また、参加者間の連絡手段として、グループLINEを作成しました。各班から歩行状況と写真が頻繁にアップされて、一緒に歩行しているという一体感を持つことができました。

私は、1993年～1998年の5年間札幌市に居住して隈なく道内を巡りましたが、とりわけ道南地域の市町村は職場の出張で多数回訪問しました。今回の海岸線歩行によりこれまで知らなかった道南地域を沢山発見できました。

また、1993年7月の北海道南西沖地震の津波で被災した奥尻島は、私用に被災後の復旧復興半ばの1994年夏に訪れましたが、今回歩く旅で復興を遂げた奥尻島の様子を見ることができました。



第2回歩行の最終日の朝、宿泊した「トラベルハウス思い出」の前にて

(2) 1日目(6月19日) 天気 曇り : 昼便の飛行機で東京から函館に移動、五稜郭タワーと五稜郭公園を観光、夕食後に函館山夜景観賞

参加者6人は、11時10分羽田空港第2ターミナル4階の飲食店に集合して昼食、羽田空港(ANA555便)13時05分発、函館空港14時25分着の飛行機で移動。函館空港前にてレンタカー(6人乗りシエンタ)を借り受けて、五稜郭タワーと五稜郭公園へ。展望台から五稜郭の星形の眺望と函館市内の展望を楽しむとともに、星型の五稜郭の歴史を学んだ。また、五稜郭公園を散策したが、お堀の水草が五角形に見えた。



タワー展望台から五稜郭の星形の眺望



タワー1階の土方歳三像の前にて



五稜郭公園にて五稜郭タワーをバックにして



五角形に見えるお堀の水草

函館駅前のコンフォートホテル函館にチェックインし、17時20分から駅近くの飲食店「函館ダイニング雅家」にて夕食・交流前夜祭を行った。交流前夜祭で自己紹介を行ったが、初対面の方と初日から打ち解けて互いに親しくなった。

交流前夜祭後に、前回第1回歩行では緊急事態宣言によるロープウェイ休業のため出来なかった函館山の夜景観賞に行った。19時30分発の函館駅前から函館山山頂行の登山バスに乗車した。函館山山頂はガスに覆われていたが、次第にガスも薄くなって幸運にも我々が到着すると視界が開けた。

世界3大夜景のひとつといわれ、100万ドルとも謳われる函館山からの夜景は驚きの美しさだった。



函館山の夜景



第1回歩行と同じ場所で集合写真

20時40発の登山バスで函館駅に戻り、函館駅前で第1回と同じ場所で集合写真を撮って21時20分ホテルに到着。初日の幸運な天候が歩行期間中続くことを願って就寝した。
(坂本徹 記)

(3) 2日目(6月20日) 天気 曇りのち晴れ：乙部町役場→48.0km→せたな町役場大成支所

早出できるように6時00分から朝食が摂れるホテルを確保していたことから、予定どおり7時00分コンフォートホテルを出発し、前回歩行の到達点の乙部町役場に向かった。通勤時間帯前のため交通量は少なく、順調に進んでいく。レンタカー運転に慣れるため米澤さんと岸田さんに交代して運転してもらった。

乙部町役場から2km先の館の岬トンネルが通行止めの交通情報があったため、レンタカーで通行止めの地点まで行って迂回道路があることが確認できた。一安心であった。

9時20分、今回歩行のスタート地点の乙部町役場に戻る。米澤さんの運転で、ウサギ班とカメ班のスタート地点に向かった。



館の岬トンネル手前の通行止め地点



乙部町役場前にて

【チーター班：乙部町役場→23.0km→きむら荘】メンバー：坂本徹、味沢俊治

9時30分、乙部町役場をスタート。役場から海岸に一番近い道路に出て、誰もいない乙部町民体育館を見ながら進んでいくと、地元住民から「熊出没情報があるので注意」と声を掛けられた。通行止めのゲート手前から迂回道路を進むと、生命の水「といの水」があり、喉を潤す。



生命の水「といの水」



元和台海浜公園の海のプール

10時25分、迂回道路を抜けて国道に戻った。迂回道路は道幅拡張工事が行われて2車線の道路であった。11時15分、元和台海浜公園の海のプールで早めの昼食を摂る。海のプールはシーズン前で休業していて、静かな海浜公園であった。これから行く鮭の岬を見渡すことができ、近くには奇岩の窓岩が見えた。

11時50分、穴澗岬手前に到着。通過可能と思われる横穴があるので海岸に下りて進む。横穴を通過し、ショートカットできた。



穴澗岬の横穴にて



鮪の岬への海岸にて

国道を進んでいくと鮪の岬に近づいた。地理院地図をみると鮪の岬の先端まで海岸を歩けそうなので進んだ。絶景の海岸線であり、エゾカンゾウが咲いていた。地図で岬からは国道に戻れる徒歩道があるので、そこを通過して国道に戻った。

13時20分、豊浜漁港で休憩。14時00分に豊浜トンネル1,270mを所要時間14分で通過した。その間に通過した車の台数を味沢さんが数えていた。前方からの車12台、後方からの車8台だった。

14時40分、函館牛乳の移動販売車が来たので、飲むヨーグルトを買って飲んだ。冷たくて美味しかった。

15時00分、鮎川海岸の砂浜を進んでいく。ハマヒルガオが咲いていた。

16時25分、目的地のきむら荘到着。

(坂本徹 記)



函館牛乳の移動販売車

【ウサギ班：きむら荘→15.1km→貝取澗】メンバー：田口馨、岸田英子

好天の中10時30分スタート。道端にたくさんのピンク色のナデシコやハマヒルガオを愛でながら歩みを進める。八雲町熊石地区にて「交通事故死0の日」が3,170日続いている看板を目にする。素晴らしい。道南霊地門昌庵（曹洞宗の寺院）に立ち寄る。



スタート前にきむら荘にて



交通事故死0の日の看板



道南霊地の門昌庵

11時30分、広々としたふれあい広場にて昼食。誰もいない中、黄色い花とクローバーの白が一面に咲き乱れて出迎えてくれる。休憩をゆっくりとって12時20分スタート。途中、小さなツバメのヒナが地面にいたがそっとしておく。12時45分、1615年に大きな岩の上に建立された八雲神社があり、お参りする。

飲料水が減り、地元の方のご厚意で冷たい水をペットボトルにいただく。ありがたい、美味しい！

ここから海岸線沿いに奇岩が続く。夫婦岩、親子熊岩、タヌキ岩、釣の潤岩等々、角度によってそのように見えてしまう。洞窟などもあり降りて、くぐったりして探検してみる。



大きな岩の上にある八雲神社



それも終わり、歩みを進めていると我々のレンタカーが確認できた。足が疲れてきた頃で、本当に良いところに駐車してくれたと思った。

16時45分、目的地到着。スタートから6時間15分であった。

(田口馨 記)

【カメ班：貝取潤ー9.9 km→せたな町役場大成支所】メンバー：蔵田道子、米澤俊枝

出発前にトイレに寄リたかったので、駐車して歩き出す前に今日宿泊するあわび荘にトイレを借りて寄った。その時、夕方までその辺を歩いてまた来ますと言っておいた。

そして、予定の駐車場所を探すが見つからず、かなり先まで車を走らせた後、白泉橋の近くまで戻ってきて車を降りて探し、ポンプ場敷地の脇に駐車する。

11時30分、出発。どこで昼食にしようかと考えながら歩いていくと、道路から海に降りる階段があった。まだ歩き始めていくらか経過してないが、お腹もすいたのでここで昼食にした。道路からは見えずのんびりできるし、階段が座るのも食べ物を置くのも具合が良い。

昼食を終えて歩いていると、前方から来た車が私たちを見て止まった。何かと思ったらあわび荘の方だった。熊が出るかもしれないので、山の方には行かないように注意をするためとの



昼食をした場所

こと、私たちが追いかけて行き過ぎて、戻って来たところだった。

13時15分、道の駅「てっくいランド大成」で休憩。道の駅の前浜が海水浴場になっていて更衣室もあるが、売店は小さくて品揃えは少ない。それでも、米澤さんは飲むヨーグルトを、私はアイスクリームを買って大満足。写真を撮っていると、お店の人が私たち2人の写真を撮ってくれる。



道の駅「てっくいランド大成」



飲むヨーグルトとアイスクリームに大満足

15時10分、久遠漁港到着、結構大きな漁港だった。集魚灯をつけたイカ釣り船が何隻か停泊している。海岸を離れて街の中へ向かい、ゴールのせたな町大成支所を目指す。お寺がいくつかあり、時間があれば後で見に来ようと取りあえず寄り道せずに歩き続ける。支所前のバス停を見つけ、道の先に支所らしい建物が見えた。歩いて行くと支所到着、15時50分。

結局、日陰に置かれたベンチに座ったら、ずっとおしゃべりして車を待つことに。そろそろ来る頃、バス停のある道路の入口で待つことにして移動。その時きつねを見かけた。こんな住宅街でとちょっとびっくりする。
(蔵田道子 記)

16時45分、ウサギ班はレンタカーを回収。岸田さんが運転して17時15分せたな町役場大成支所にてカメラ班をピックアップ、17時50分きむら荘にてチーター班をピックアップ、18時10分あわび山荘に到着。

温泉入浴して疲れを流して、夕食はあわびをはじめ海の幸と生ビール、美味しい。各班からの歩行結果報告の後、「健康と生命の尊さ」をテーマとしてお互い情報を披露して、親睦を深めた。

(4) 3日目(6月21日) 天気 晴れ：せたな町役場大成支所→54.1km→茂津多岬駐車場

8時20分、ロービーに集合。集合写真撮影、米澤さん作成の歌集の「宗谷岬」を合唱して8時30分出発。途中コンビニに立ち寄って昼食を調達し、9時05分せたな町大成支所に到着。



あわび山荘にて



スタート前のチーター班

【チーター班： せたな町役場大成支所→22.2 km→狩場茂津多道立公園】メンバー：坂本徹、田口馨

米澤さんが運転するレンタカー乗車のウサギ班とカメ班に手を振って見送る。

今日も好天の中、9時10分スタートする。

30分歩くと、真っ青な空に真っ白な灯台がくっきりと見えてきた。初点灯昭和32年の小歌岬灯台、私の生まれた年と一緒である。高台からの景色が素晴らしい！

海岸線に出たところで、尻尾が細くて長く耳が大きい犬くらいの動物と目が合う。犬だったら繋がれているはず、キツネだった？！

左に海岸線を見ながら進んでいくと、オレンジ色の綺麗な花が、歩道の路面の割れ目から沢山元気に咲いている。しばらく両脇に咲いていて癒される。



歩道の路面の割れ目から



初点灯昭和32年の小歌岬灯台

10時55分、帆越山トンネル(1,857m)を越え、太田山神社（日本一険しいと言われる参道）が迎えてくれる。ウサギ班とカメ班の4人は先に登ってLINE写真が送られてきていたが、実際に見て急な階段に驚いた！急傾斜の階段139段を登り降りして、11時55分入口のベンチにて昼食をいただく。入口近くを流れ出ている水がとても冷たく美味しい！

12時25分出発。左手にいろいろな形に変わっていく海岸線を楽しみながら歩く。12時50分、この日最長の太田トンネル(3,360m)に入る。ここでも坂本さんが用意してくれた反射安全ベストを着用し、ヘッドランプを点けて、1人が点滅誘導棒を持って歩行する。持ってきてくれた山の会オリジナル歌集をめぐりながら自由気ままな選曲をして



日本一険しいと言われる太田山神社の参道を登り降りする

歌い、坂本さんが合わせてくれる。トンネル内を抜けるまでの車のエンジン音を伴奏に、エコー効果で自己満足しながら、1冊の歌集がちょうど歌い終わる。歩いて声を出して爽快！

16時20分、狩場茂津多道立公園手前のせたな町立大樽小学校駐車場に到着。



狩場山遠望



町立大樽小学校駐車場に到着

今日も素晴らしい一日であった。初めて 22.2 kmを歩いた。翌日のレンタカー運転のため、事前にレンタカーの運転練習をした。遠い地にてレンタカーを初めて運転した日でもあった。

(田口馨 記)

【ウサギ班： 狩場茂津多道立公園→20.1 km→旧瀬棚町立島歌小学校跡】メンバー：味沢俊治、米澤俊枝

9時10分、大成支所 チーター班を降ろして出発。

9時15分～9時30分、途中大田山神社に立ち寄り、カメ班・ウサギ班の4人で急峻な階段を上り下りした。恐ろしかった～！



大田山神社参道入口にて



急傾斜の階段 139 段を登る

10時30分、旧島歌小学校跡でカメ班降ろす。途中道を間違えウロウロする。

11時13分、太櫓小学校に駐車。

11時16分、やっとウサギ班太櫓小学校を出発。間もなく大きな砂州が見えてきた。背景は白い雪の残る狩場山。絵になる風景だ。橋を渡った所で、前を歩く味沢さんが道を外れ、藪を分け入り下り始めた。えっ！と思ったが後に続いた。海に注ぐ太櫓川に沿った砂丘地帯につながっており、黄色い花のお花畑になっていた！ アイルランドのような景色（行ったことはないが・・・）。



アイルランドのような景色の中を進む

12時15分～12時45分、砂丘上の見晴らしの良い場所でランチタイムとした。持参した味噌をキュウリに付けて食べたが、お薦めだ。防風柵に二重・三重に囲まれた砂地で用を足す。誠に快適だった（猫の気持がわかった）。

砂浜を歩くと砂に足がめり込むので結構労力がかかる。しかし気分は最高！砂浜にハマナスが咲いていた。14時00分、後志利別川河口に出た。1992年の『北海道南西沖地震』後志利別川被災等を示す看板が立っていた。行く先は川を挟んで目の前。しかし、川に橋は無く渡渉も深そうな箇所があり駄目。一縷の望みは

絶たれ、車道の橋まで堤防を遡り歩いた。風力発電の風車を何機も見ながら田園地帯に行く。三本杉岩（海にそり立つ3つの岩）が見えてきた。海岸沿いの道を歩く。振り返ると三本杉岩と風車が並び「シュールな風景！」と、味沢さん感嘆。



三本杉岩と風車が並ぶ「シュールな風景」

疲労困憊の声を発したのに、「元気にピョンピョン跳ねてた??」と受け取られたらしい。

最後のトンネルを抜け出た。遠くに集落が3つ見えた。あのどれかが到着点のはず。どれだ～！

18時00分、4人の待つ島歌小学校跡に到着。

何とか歩き通せて良かった～。(米澤俊枝 記)

16時15分、余裕があったのはこの辺りまで。カメラ班・チーター班が次々到着とのラインが入ってきた。この分だと間もなくチーター班が車を回収し、我々を追い越していくはず。来た～！17時00分、「ガンバって～」の声を残して、チーター班がカメラ班を迎えに通り過ぎて行ってしまった。「あれ～！」と



歩き通せて島歌小学校跡に到着

【カメラ班：旧瀬棚町立島歌小学校跡ー11.8km→茂津多岬駐車場】メンバー：蔵田道子、岸田英子

10時30分、旧瀬棚町立島歌小学校跡スタート。スタート地点の小学校跡は車から見つけることが難しいところだった。小学校跡と判るものがなくて、校門と考えられる古い低い石門が残っていた。ハマナスが石門のまわりを美しく飾っていた。

海岸に少しでも近くを歩行しようと道路は左側を通行する。トンネルの距離もチェックしながら、用意された反射安全ベストを着用する。また、味沢さんから教えてもらった誘導棒の使い方をもとに実践し、点滅誘導棒を上手く使うことができた。

蔵田さんが地図をチェックして、現在地を確認しながら進んでいく。日陰がなくて海岸にはゴミがあるので、昼食の場所を探す。

12時05分～12時55分美谷地区に漁船一隻があり、隣の小屋の日陰にて昼食を摂る。

藻岩の滝は、トンネル入口の傍に落ちて、高さがあり美しい流れであった。須築トンネルは歩道がなく、工事中であった。歩いて行くと点滅反射安全ベストとヘルメットを着用して誘導棒を持った作業員が、やさしく誘導してくれて、片側道となった道路を安全に歩行できた。マムシ注意のお話をしてくれたが、以後草繁みには怖くて近づけなくなった。

須築漁港を進むと車と釣り人がいたので、「何が釣れるのか」と尋ねた。釣りで北海道中を回っている方で、「今は暑くなったので何も釣れないよ、バケツ一杯の冷凍エサを海に流して処分した」とのこと。私たちの「歩いている」ことを話すと「良いことだ」と褒められた。



島歌小学校跡の石門前にて

国道 229 号線は、海岸から山側への登り道になり、途中トイレの建物があった。使用したが、きれいに清掃されていた。

茂津多トンネル (1,974m) はカメ班の最長のトンネルであり、思い浮かぶ山の歌や思い出の歌を歌いながら楽しく通行した。トンネルは高い幅広の歩道があり、車の怖さは点滅誘導棒の効果で和らいだ。

茂津多トンネル駐車場は黒い大きな土袋が積まれて封鎖され、想像していた岬駐車場の姿ではなかった。土袋を超えて様子を見るとアスファルトは剥がれて穴があり、岬の名前を刻んだ石碑も荒れ果てて、北海道南西沖地震と津波の爪痕と思われる姿であった。

一羽のカラスが私たちの直ぐ側に来て、「カー」ではなく、何やら「くにやもにやくぐる」と話した。カラスは人の話を理解して真似をされると言われているが、群れず独りのカラスとの出会いは貴重な体験だった。

15 時 40 分、目的地到着。歩数は 21,834 歩だった。小学校跡でウサギ班を待つとき、目の前の海岸の波の音から、引き波の石音を坂本さんが気づき、味沢さんから聞いていた引き波の石音を体感した。奥深い素敵な音に飽きることなく、波の姿と音にワクワクした。

(岸田英子 記)



島歌小学校跡の目の前の海岸にて波の音を聞く

16 時 20 分、チーター班はレンタカーを回収。坂本の運転で 16 時 50 分茂津多岬駐車場にてカメ班をピックアップ、17 時 00 分ウサギ班ゴールの旧島歌小学校跡に到着。ウサギ班が 18 時 00 分到着し、18 時 20 分温泉ホテルきたひやま到着。

温泉入浴して疲れを流して、夕食は海の幸料理。冒頭に生ビールで田口馨さんが初めて 22.2 km を歩いたことなどを祝して乾杯。各班からの歩行結果報告の後、「登山との出会いと昨日・今日・明日」をテーマとしてお互い情報を披露して、親睦を深めた。

(5) 4 日目 (6 月 22 日) 天気 晴れ : 茂津多岬駐車場→47.6 km→寿都町役場

7 時 50 分ロービーに集合、集合写真を撮影、米澤さん作成歌集の「知床旅情」を合唱して 8 時 00 分出発。



温泉ホテルきたひやまの前にて



「知床旅情」を合唱

今回歩行のゴール地点である寿都町役場からチーター班が逆方向で歩行するため、寿都町役場に向かう。

9 時 40 分、寿都町役場到着。今回第 2 回歩行のゴール地点となるため、寿都町役場の前で集合写真を撮影する。

チーター班を降ろしたあと、ウサギ班スタート地点である茂津多岬駐車場へ。途中名所旧跡の弁慶岬に立ち寄る。茂津多岬駐車場からは田口さんがレンタカーを運転する。



今回北海道第2回歩行のゴール地点の寿都町役場にて



弁慶岬の弁慶像にて

【ウサギ班：茂津多岬駐車場→18.1km→道の駅よってけ！島牧】メンバー：坂本徹、米澤俊枝

11時00分、カメ班に見送ってもらい出発。いきなり3つの長いトンネルが続くので、反射安全ベストとヘッドランプを装着した。先導する坂本さんの手には赤色点滅誘導棒。歌集を持ち、いざ！最初は1,600m。次に1,300m。3つ目の「白糸トンネル」1,806m。トンネル内では歌い続けた。車の轟音がすごい、車数が少ないため、エコーの効いたトンネル内で歌うのは最高！「津軽平野」を思い切り歌い、その他にも色々な歌を。坂本さんとは微妙にハマっていた？感じ。



白糸トンネル入口



トンネルの上には2本の白糸の滝

12時40分～13時10分、トンネルを出た所で、閉鎖されている旧道にてランチタイム。海を眺め、後ろを振り返って見上げると、トンネルの上には2本の白糸の滝！

13時40分、海岸沿いの車道で、『日本一周中』と書いた自転車の中老年男性1名に会った。他班が出会った人とは違う人らしい。車道を延々と歩く。坂本さんとは私が30代半ば頃、山の会で一緒にいたが、その後は遠くそれぞれの地での生活となった。律儀に賀状を下さり、30年経て再会し海外登山にも誘って頂いた。この間の仕事や組合活動ほか、激動？の生活など色々話を聞いてもらった。坂本さんの話も伺った。海を見ながら、淡々と歩きながら、来し方を語る時間も悪くないものだ。

15時30分、少し先を見下ろすと、ヘリポートになりそうな平らな岩盤があった。降りられるか？道路を進むと柵がない箇所があり、下につながる階段があり坂本さんが降りた！しかし湿地になっており岩盤ま

では進めなかった。残念。



ヘリポートになりそうな平らな岩盤の手前に下りて

16時20分、島牧小学校を通過し、『あと1Km』の標識が出てきた。車道から逸れて砂浜を歩き道の駅「よってけ！島牧」へ。

16:40 道の駅到着。車を回収しカメ班の待つ「軽臼漁港」へ。

17:00 軽臼漁港着。カメ班が地元の方から頂いた苺🍓が待っていた～！乾いた喉に美味しかった。カメ班のおかげ、感謝、感謝。
(米澤俊枝 記)

【カメ班：道の駅よってけ！島牧→9.0km→軽臼漁港】メンバー：蔵田道子、田口馨

11時45分、道の駅よってけ！島牧を出発。

江の島トンネルを抜けると江ノ島という砂浜の海岸に出た。田口さんは砂浜を歩きたいと言うので、私は道路をそのまま歩き別々になる。そのうちに道路から砂浜が見えなくなり携帯電話で連絡を取りあい、駐車場のトイレの建物の近くで再会。そこで昼食をとる。

12時45分～13時25分、昼食休憩。田口さんが目が痛いと言うので、持っていた目薬をあげたが良かっただろうか？

歩き始めて、すぐに水田があり草取りをしている人がいた。泊川橋の近くは公園になっていてトイレもあったが、修繕が必要なため使用不可と書かれていた。

泊の集落を抜け、床丹川の手前で、苺を摘んでいる女性から呼び止められ、苺を持って行かないかと言われた。時間があれば自分で摘んで持っていても良いとも言われ、急遽苺狩りを体験することになった。苺はちょっと小粒だが、早く摘まないと、ダメになってしまう位の状態なので、甘くとても美味しかった。そのことがきっかけとなり、その後地元の人々に私達の旅の説明をすることとなった。

16時05分 ゴールの軽臼漁港到着。
(蔵田道子 記)



スタート前に道の駅よってけ！島牧にて



ゴールの軽臼漁港にて



ウサギ班が合流してイチゴをいただく

【チーター班：軽臼漁港←20.4 km—寿都町役場】メンバー：味沢俊治、岸田英子

我班は、今回の旅の最終到達地である寿都（すつつ）から軽臼漁港までの20.4キロを9時45分に逆向きにスタート。

まず、積丹半島の対岸にある弁慶岬を目指す。はじめて知った寿都は、アイヌの地に和人たちにより建設された港町である。それを象徴するように日蓮宗、真宗本願寺派、浄土宗、曹洞宗の4つの寺院が並んで国道沿いにある。

海岸に出ると水産加工工場がいくつかある。若い女性が数人で出てくる。ベトナム人か。「能登」の表札の家。30分ほど段丘上を歩いて弁慶岬に出る。武蔵坊弁慶の銅像。衣川の戦いに敗れたのちこの地で援軍を待ったというが、不思議なことに、説明文に誰がいつ設置したかの記述がない。弁慶がアイヌと相撲を取った土俵の跡と記した石碑まである。弁慶が死んでなければ対馬海流にのってこの浜に上陸するのは、あり得ない話ではないから、商魂たくましいというべきか。



積丹半島の対岸にある弁慶岬

歌島から美川にかけて、美しい砂浜を歩く。途中で3本の河川の河口に遭遇する。いずれも、風と波で堆積した砂浜によって河口は狭められ、湾曲させられている。流木で架橋して渡ろうとするも失敗、裸足で渡ろうとする岸田さんに促され、私も裸足になる。気持ちよのままに、河口をすべて渡渉し、歌島海岸の3km以上を裸足で歩ききった。後ろに続く岸田さんが、私の足跡に感動している。縄文人はこうして海岸を歩いたのだ。



歌島から美川にかけて美しい砂浜を歩く

16時30分、ゴール手前の厚瀬トンネルまで来た。トンネル入口の右手に旧道があり、その先に古いトンネルがある。汀に続く広大な海食棚を探索する。そこを歩行すれば旧道とトンネルを通過できそうだ。その先に見える岩があたかも観音様が合唱しているよう。しかし、長時間の藪こぎが必要でトンネル入口まで到達するのが困難と判断した。

戻って厚瀬トンネルをくぐり軽臼漁港に17時26分到着。みなさんを待たせてしまった。

(味沢俊治 記)



軽臼漁港に到着

16時40分、ウサギ班は道の駅「よってけ！島牧」に到着してレンタカーを回収。坂本が運転してカメ班の待つ「軽臼漁港」に17時00分着。チーター班は17時26分に「軽臼漁港」到着。これをもって今回第2回歩行は計画どおり完歩できた。カメ班が地元の方から頂いた苺を車中でも食べながら、これまで歩いて来た道路と風景を見ながら、きむら荘に向かった。

19時30分、きむら荘到着。

民宿のため温泉入浴とはならないが、小さなお風呂に交代で入浴した。風呂上がりの冷たいビールは、コロナ禍のため事前予約がある場合のみ提供であった。しかし、常温の瓶ビールと氷はあるというので、どうか冷たいビールにありつけることができた。やはりビールは美味しかった。

(6) 5日目(6月23日) 天気 曇り、午後時々雨：江差町散策、奥尻島に移動・フットパス

きむら荘では、前夜常温のビールをロックで美味しく味わい、たくさんの料理に満足した。

8時00分玄関に集合、集合写真を撮影、歌集の「遠い世界に」を合唱し、8時10分に出発。

岸田が返却せずに室錠を持ち出してしまったことが車中で判り、江差の郵便局で郵送して返却した。

8時50分、江差フェリーターミナル着。乗車券を購入して、レンタカーを指定駐車場に駐車。

岸田以外は、江差いにしえ街道を散策。岸田は、地元郵便局を使った鍵返却体験、その後歌にある江差の空気を感じたくて、ぶらぶらした。姥神大神宮は長くニシン漁を守って来たこと、祭の鉦の模型の多さと内容に、盛んな北前船交易が感じられた。

10時30分、フェリーに乗船。一日一便のフェリーはゆったり移動した。乙部町、せたな町の海岸から、晴天により歩きながら見られた奥尻島、太田神社の急段から手を合わせた奥尻島、ワクワクドキドキは増すばかりだった。



出発前にきむら荘にて



乗船前の江差フェリーターミナルにて



フットパスに出発後すぐに到達した鍋釣岩

13時15分、奥尻島着。徒歩5分の奥尻レンタカー会社に16時借受(セレナ8人乗り)の手続きを行い、レンタカー内に荷物を置いてフットパスに出発。鍋釣岩を見学し、小雨の中、フットパスのコースである「奥尻21世紀復興の森」を1時間程歩いた。島の中心の飲食店街から町役場は木造平屋づくりで昔のまま、職員は草むしりをしていた。夜の「民宿木村さん家」のオーナー(元役場職員)のミニ講演を聞いて理解できた。町民の命と暮らしを守る復興支援と防波堤など災害対策が優先、役場庁舎など箱ものは劣後とのこと。役場は震災・津波の時のままであった。

時間に余裕があったので島全体が一望できる球島山展望台に行ったが、ガスと強風で視界がなかった。「民

宿木村さん家」に向かい、開業7年の可愛い黄色の建物にほっとした。元役場職員でつり名人の夫と元バスガイドの妻の2人で、人生再挑戦の民宿経営であった。



島全体が一望できる球島山展望台では視界なし



民宿木村さん家の前にて

夕食の真タコのさしみをはじめ、つり名人の海の幸が沢山振舞われた。島に魚屋はなし、ジンギスカンのための肉屋はあるとのこと。

くつろぎの浴衣のほかにパジャマ（部屋着）が廊下の棚にあって、好みでチョイス。宿泊者への思いやりとして、経営者夫妻のアイデアによる装飾や備品が建物内に満ちていた。

夕食後、オーナーの木村さん（元役場の震災・津波復興担当職員の経験をもとに語り部）のミニ講演を聞いた。奥尻島の震災・津波被害の状況、復旧復興の取り組み、防災対策をはじめ、町の復興の進め方とお金の使い方、ピンチをどうとらえていくか、人間らしい生き方などにも言及された。豊かさとはなにかを考えさせられる機会となった。

なお、米澤さんの好きな吉幾三（「津軽平野」の作詞・作曲者）など芸能人が民宿を訪れていて、話が盛り上がった。
(岸田英子 記)

(7) 6日目（6月24日）天気 雨のち曇り：終日奥尻島名所旧跡巡り

8時30分、民宿木村さん家をレンタカーで出発。

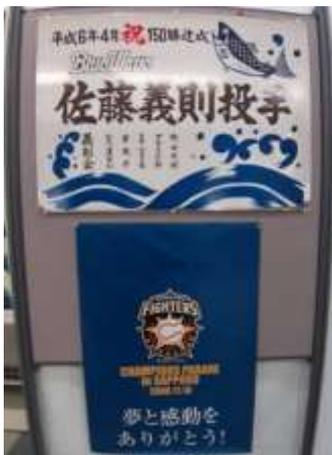
朝から雨模様、風もある。最初は青苗地区の津波被災現場に建設された奥尻島津波館を見学。昨日の木村さんの講演を聴いたあとなので、展示内容が身にしみる。被災した子供たちの作文に心が揺さぶられる。この施設は同時に奥尻島の歴史をたどる展示も充実している。青苗地区で発見された実物が展示されている丁字頭勾玉（糸魚川のヒスイが原石）は国内でもまれな見事なもので、この島が8世紀よりも前の時期から都の有力者との深いつながりをもっていたことを示す。



奥尻島津波館に展示のパネル「津波の爪痕」

そのあと島の西海岸に周り、神威脇温泉に浸かる。創建当時の構造を残した1階は漁師たちが優先的に利用し、2階の展望風呂が観光客のためのもの。たった一人の女性が管理していた。客は我々6人のみ。この温泉はもともと国後島からの引き揚げ者によって開かれた温泉だそう。高台に湯ノ浜温泉ホテルがある。奥尻ワインのワイナリーが併設されているが、営業しているのはこれだけで、ホテルは2018年に閉館した。

西海岸の道路上の車窓から50Mは優にある「ホヤ石の滝」を見る。昼食は青苗地区に戻り、魚介類のたくさん入ったあんかけ焼きそば。



佐藤義則投手野球展示室

うにまるモニュメント

マスコットキャラクター「うにまる」

午後は、島の東海岸を朝とは逆に北に向かう。途中、奥尻出身の佐藤義則投手野球展示室と「うにまるモニュメント」に寄り、昨夜泊まった「民宿木村さん家」のある場所を通る。ここは東風浜（やませはま）と名付けられており、強い東風が海から陸に島に向かって吹いている。島北端の稲穂地区まで行く。奥尻地震の時に30Mを超える津波が襲い壊滅した地域だ。被災後、ふたたび積み上げられた石塔がならぶ賽の河原公園をめぐる。このとき、雨がこの日のピークとなり雨具を着ることとなる。

賽の河原のほど近く、宮津弁天宮がある。弁天崎の浜まで階段で下ってそこから30Mほど上がったところに立派な社が守られている。入口の鍵がかけておらず参詣者は自由に社殿に入れるようで、「入口の戸は必ず閉めるように」と注意書きがある。祭殿の前は広い部屋で記念撮影。



島北端の稲穂地区の賽の河原公園

宮津弁天宮の祭壇の前にて

奥尻島宮津弁天宮は、その対岸にある太田山神社とちょうど向き合う関係にある。この地の海で生業を立てる人々にとって、海に向かうこのふたつの場所は大きな意味を持ってきたはずだ。この旅の途中で、このふたつの神社のまえで「般若心経」をお唱えできたことは、私にとって深いところで、この旅と人生をかえりみる時間をもつこととなった。
(味沢俊治 記)

16時20分、トラベルハウス思い出到着。坂本は奥尻レンタカー会社にレンタカーを返却。
夕食交流会では、今回歩行全体の感想、情報交換会は「夢・目標・生きがい」をテーマに行った。
率直に想いを披露して、お互い感銘を受けながら有意義な時間を過ごした。

(8) 7日目 (6月25日) 天気 曇りのち晴れ：奥尻島→江差→大沼公園→函館空港→帰途へ

6時20分、集合・集合写真撮影。フェリーターミナルに向かって歩きながら「見上げてごらん夜の星を」を合唱した。

7時00分、奥尻フェリーターミナル発、9時20分江差フェリーターミナル着。

9時30分、2日振りのレンタカー（シエンタ）で江差フェリーターミナル港発。途中「道の駅あつさぶ」にて休憩、お土産を買う。



奥尻フェリーターミナルから乗船のフェリー



立ち寄った道の駅あつさぶ

11時10分、大沼公園に到着。昼食は旅の最終の食事となることから、ネット情報で見つけた客の評価が高く、洒落たレストラン「テーブル・ドゥ・リバージュ」（窓辺の景色がモネの絵画のようなお洒落な洋食のお店）に入った。既に満席で1時間程度待つことになるため、店員から席が空いたら携帯電話に連絡するので散策に出かけてくださいと言われた。このため、島巡りの散策路（太鼓橋などで繋がる7つの島を巡る

コースで所要時間50分）を楽しむことにした。大沼駒ヶ岳は、山頂に雲がかかって全体を見ることができなかったが、大沼湖に浮かぶ島々の風景と、自然が創り上げた日本庭園風な景観は素晴らしかった。



日本庭園風な景観の散策路



散策路で出会えた巨木ブナにて

散策が終わる直前にレストランから電話があり、「慌てずにゆっくりと来てください」とのこと、北海道らしいおおらかなおもてなしに気分がよかった。ゆったりと旬の地元素材を使った食事とアフターコーヒーを楽しんだ。



レストランの建物を背景にして



ピカタの森アイス工房にて

このあと、坂本が札幌在住時に懇意にしていた(株)駒ヶ岳牛乳のピカタの森アイス工房に車で移動して、ソフトクリームを美味しくいただいた。店は多くの客でにぎわっていた。次に、1905年創業の老舗・沼の家の銘菓「大沼だんご」、賞味期限は1日限りであるためお土産にはなり難く、自分用に購入した。



老舗・沼の家の前にて



大沼公園駅前にて

蔵田さんは、延泊で札幌に移動するため大沼公園駅にてお別れとなった。

味沢さん、田口さん、米澤さん、岸田さん、坂本の5人は函館空港へ向かい、15時30分函館空港前のニッポンレンタカー店に到着。レンタカーの走行距離は726kmだった。

函館空港発 16時45分(060便) → 羽田空港 18:10着の飛行機で帰途についた。(坂本徹 記)

(9) 参加者感想

【蔵田 道子】

今回第2回歩行もカメラ班での参加で、私にはちょうど良かったです。前回第1回歩行と比べて、歩行中の見学場所が少なかったと思いますが、その代わりに人との出会いが多かったです。

新しいメンバーが加わったチームで歩行、これもまた、旅の醍醐味ですね！

奥尻島では生憎の雨天になりましたが、奥尻島に行けたのも良かったです。前回同様、坂本さんの計画の緻密さには脱帽です。有難うございました。



【田口 馨】

今回も素晴らしい好天に恵まれた海岸線を歩く会。
初日はウサギ班、元気で力持ちでそれでいて繊細な岸田さんとの15.1km。沢山の奇岩を見たり、地元の方と話したり楽しかったです。

2日目はチーター班、リーダーの坂本さんと一緒に長いトンネル内であんなに歌ったのは初めてでした。

3日目はカメ班、蔵田さんと、まさかのイチゴ摘み取り体験が出来るとは！おいしかったです！地元の方に声をかけられることが多くあり、海岸線を歩いている説明を何度かしました。

緊張しながらのレンタカーの運転も、わかりやすい駐車場で良かったです。

車中で隣同士となった米澤さんと、持ってきてくれていた歌集で歌ったことや、奥尻島で一緒にの部屋でストレッチを教えてもらったことがよい思い出です。また、米澤さんは参加する前に地図などを拡大コピーし、勉強してきたそうです。見習いたいと思いました。

別日に隣に座った岸田さんとも楽しくおしゃべりし、岸田さんは方向音痴でないのが羨ましいです。

いつもにこやかでチャーミングな蔵田さん、そして活動的な蔵田さん。

坂本さん運転時、隣でナビ役の味沢さん。お堂内にて美声の般若心経を聞いたのも貴重なひととでした。

そして朝晩いただく食事もとても美味しく、真心のこもったおもてなしをしてくださいました。

奥尻島で宿泊した宿のオーナーさんは50歳で役場を退職された方、ミニ講演では津波の生の声を聞くことができ、悲惨な惨状を知りました。

そして毎晩のテーマを決めた話し合いも楽しみのひとつでした。

坂本さんには歩行計画から宿の手配、飛行機のチケット等々、最終日にはスマホ充電器まで本当にたくさんお世話になりました。

今回も素晴らしい尊敬する方々と楽しく有意義な毎日をご過ごせました。

皆さま、お世話になりました。またお会いできる日を楽しみに元気に過ごして参りたいと思います。ありがとうございました。



【味沢 俊治】



事前に地形図でコースを確認するなか、気になる場所がふたつありました。ひとつは、2日目の出発地から5kmほどにある太田山。奥尻島に面した海岸からの距離500Mに海拔485Mで屹立しています。ほとんど絶壁のような道のさき、岩稜となった山頂に神社があります。函館で入手した観光パンフレットで、北海道最古の山岳霊場、日本一厳しい参道、15世紀に松前藩の祖となる人物が創建したと知りました。実際、鳥居をくぐるとまるで梯子のような階段が、果てしなく伸びていました。斜度45度以上、恐怖に足がすくみ、ロープにしがみつきながら160mほど攀じ登ると、小さな祠がありました。それが地図にある最初の神社。本殿はまだずっと先。もう

うここまでで精一杯でした。それでも、冒険への達成感はこのほかありました。

もうひとつが、太櫓川（ふとろがわ）から後志利別川（しりべしとしべつがわ）までの砂丘と砂州に挟まれた海岸線でありました。国道から太櫓川の堤防を通り、河口に作られた砂州と潟湖を見ながら、20Mを超える砂丘を越えて4km近く続く砂浜を歩くコースです。砂浜がつくりだした砂丘に草花（エゾオグルマ、

ハマヒルガオ、ハマナスなど) が生え、やがて森になる。同時にその背後に作られた潟湖が湿地化して草原になる。そして灌木が生え森になる。そのわずかの場所が防砂林と柵に守られた耕地となる。わずか数キロの範囲のなかからでも、悠久の時間をかけた自然の営みと人々の生活を感じることができます。

私にとって、この旅は、地形図とゆっくりと対話できる至福の時間でもありました。

【米澤 俊枝】

「ロマンだな〜」と思っていた企画に、図らずも参加する事ができ感謝で一杯です。坂本さん以外は初対面の方ばかりでした。初めて知る事も多々あり、私のマンネリ化した脳には刺激的で中身の濃い1週間でした。事前の資料から、行程を地図に落とししてみました。パズルを解くようで複雑なスケジュールでしたが、それを現地で実際に行動してみて得心しました。グループLINEの威力も知りました。班毎に別々に歩いているのに、他班から送信される写真等から、6人で歩いているという一体感がありました。

海岸線の風景や、初めて知る現象、長時間の行程は全く飽きませんでした。自然の中でのお喋りも。ついプライバシー保護を超えたか?の面も否めませんが、自分自身との対話だったと、相棒の方は聞き流して下さいませ。6人の異なる個性!楽しかった!そして「津軽平野」を何度も歌わせて下さり感謝です。何とかありつけたビールと共にとても満足しました。



【岸田 英子】

参加させていただき、坂本さんはじめ、皆さまに感謝いたします。

参加者の経済的負担を少しでも減らすために、航空券の手配はじめ、参加者への配慮ある企画・計画でした。その繊細さ、深さには頭が下がりっぱなしです。

北海道では十分使いこなせなかった配付資料を見ながら歩行記録を作成していると、北海道歩行が再現、愉しみました。海岸線歩行により、現地の人々の様子に触れ、話しをして、お金では手に入れることのできない貴重な体験をしました。また、自然の大切さと恵みを身体全体で毎日感じました。

6月22日歩行で、チーター班でやっとゴールしたところ、カメラ班が収穫した袋いっぱいのイチゴは美味しくて疲れが吹き飛んでいきました。毎日の夕食時の生ビールは美味しかったです。独りでなく皆と一緒に歩くことが楽しくなり喜びに変わります。

砂浜の裸足歩きを再びしたい!! 平和な社会で自然に触れながら、歩けることは素晴らしいことであり、生きる喜びに溢れてきます。第3回北海道歩行にも参加したいです。



【レンタカー】トヨタ シエンタ、装備: ETC 禁煙 ナビ ABS

474 km走行しました。

お世話になりました。

レンタカー曰く「楽しんでいただいた
ようで嬉しいです!」

